

文化庁 平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

「諸外国における民間文化支援の動向調査」

2015 年度ドイツ調査レポート（フランクフルト・ベルリン）

実施日：2015 年 11 月 24 日（火）～12 月 2 日（水）

1. 調査の目的と概要

企業メセナ協議会では、諸外国における民間の芸術・文化振興の動向を調査し、文化支援の考え方や枠組みの違い、日本の企業メセナとの比較や参考となる事例を得るため、ネットワークのある各国文化機関を中心に現地視察とヒアリング調査を実施している。

今回は、ベルリン市文化部長コンラート・シュミット＝ヴェルテルン氏の協力を得て、ドイツ・フランクフルト、ベルリンにおける官民の文化関連機関を訪問し、企業・企業財団の活動事例を中心にヒアリングを行った。

ヒアリングでは、企業、財団、団体自らが社会におけるアートの役割について明確な哲学をもち、専門スタッフによる戦略的な事業運営がなされている例が多く見られた。またヨーロッパで、戦後いち早く設立されたメセナ機関クルトゥールクライスでは、企業人のアートプログラムへの参加や、支援アーティストとのコミュニケーションの場づくりなどに取り組み、企業人がアートに触れ、理解を深めるためのプログラムや、支援先であるアート活動の見える化が図られている点も印象的で、参考になる事例と感じられた。

2. 日程・視察先

11/25 (Wed)	①	ドイツ銀行 Taunusanlage 12, 60325 Frankfurt
11/26 (Thu)	②	クルトゥールクライス Haus der Deutschen Wirtschaft, Breite Straße 29, D-10178 Berlin
	③	アリアンズ文化財団 Pariser Platz 6, D-10117 Berlin
11/27 (Fri)	④	シエーリング財団 Unter den Linden 32-34, 10117 Berlin
	⑤	レンダー（州）文化財団 Lützowplatz 9, 10785 Berlin
11/30 (Mon)	⑥	ベルリン市参事会官房（レッドタウンホール） /ベルリン・ロト財団 Rathausstraße 15, 10178 Berlin

実施者：末澤汐音（調査研究）、根津青葉（国際交流）

【フランクフルト市内地図・訪問先】

① Deutsche Bank



【ベルリン市内地図・訪問先】

② Kulturkreis der deutschen Wirtschaft

③ Allianz Kulturstiftung

④ Schering Stiftung

⑤ Kulturstiftung der Länder

⑥ The Governing Mayor of Berlin Senate Chancellery



3. 調査の内容

※訪問先へのヒアリング内容を中心に、資料やウェブサイト等から補足してまとめた。

3-1. 概要

(1) ドイツにおける文化支援の動向

- ドイツでは文化・芸術に投じられる資金の 90%が、連邦政府、州、市等の政府機関からの拠出で、特に伝統ある劇場や美術館への支援が行われている。その他の 10%が個人を含む民間によるもので、各地域の教会や文化財の保存修復、文化プロジェクトに対する支援が行われている。最近では企業による財団設立や、個人の遺産による財団が増えている。リーマンショック以降、公的な文化予算は増えていないが、今のところイギリスほどの予算削減は起きていない。
- ドイツは連邦国家としての性格上、イギリス＝ロンドン、フランス＝パリ、日本＝東京のような一都市、一極集中型にはなっていない。文化芸術分野に支援を行う民間組織としては、財団の存在が大きく、国内の財団数は約 700 団体。ドイツならではの特徴的な例として、民営化された貯蓄銀行「Sparkasse」が国内約 100 地域に支店を持ち、各地域の文化支援をきめ細かく行っている。
- ベルリンでは主な文化政策はベルリン市文化部が担い、ベルリン・フィルやベルリン・フェスティバル、映画祭、文化財団への支援、ロト財団の運営はベルリン市参事会官房の管轄にある。市内の美術館、博物館、ギャラリー数は約 400 件、居住アーティストは 1,000 人以上である。

(2) 企業メセナのトレンド、特徴

- 企業による文化支援は CSR 部署の活動の一環と捉えられているが(代表例:ジーメンス、ドイツ銀行)、近年は、文化団体への単なる支援よりも、自社の名前を前面に出せる、企業による主催プログラムが増える傾向にある(ドイツ銀行のアート事業、オーディの音楽イベント「Audi Sommerkonzerte」など)。また、クルトゥールkreisの顕彰事業への応募プロジェクトを見ると、人権や環境などの社会課題に関連づけたアートプロジェクトが多くなっている。

- ドイツ銀行では、「アートは広くさまざまな人々に届けられるもの」というコンセプトのもと、キュレーター等の専門チームがメセナ事業の運営にあたり、コレクションやアーティスト支援から、社員の日常的な職場環境における作品展示まで、広い取り組みがなされている。

3-2. 訪問先機関の概要

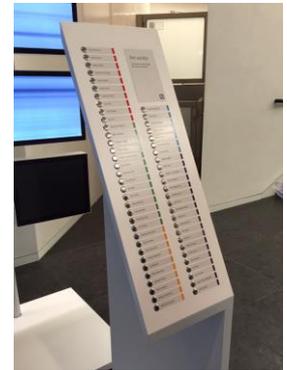
【民間団体・企業・財団】

ドイツ銀行 (Deutsche Bank)

- 1979 年より現代美術のコレクションを開始し、現在 5 万点以上の作品を所有している。ギャラリーだけでなく、社屋の廊下やオフィス内に作品を展示し、社員にとってアートが日常的にある環境をつくっている。主な展示は、版画、ドローイング、ペインティング、コラージュ、写真などの平面作品。アートマガジン『ArtMag』の発行や、ウェブサイトや Facebook 等 SNS、アプリ等での情報発信も積極的に行っている。



- 2010 年、本社ビルであるドイツ銀行ツインタワーのリノベーションを機に、これまで同社が実施してきたアートアワードの受賞作家の作品を中心に紹介するギャラリーをオープン、またフロアごとに一人のアーティストを扱うなど多数の作品を展示している。
- 平面作品は、展示・管理のしやすさに加え、アーティストの制作プロセスの痕跡が視覚的にわかりやすく、感受性に訴えかけやすい。ドイツ銀行は製造業ではなく、バーチャルな「トレード」を生業とする企業だからこそ、現代美術のアイデアや作品そのものに触れることで人間的な体験をできることを大切にしたい。



- 事業のスタッフは、アートマネジメント、美学、美術史のプロフェッショナル。キュレーターがアーティストの推薦・プレゼンを行い、選出後は銀行側スタッフがどのフロアに作品を飾るか決定する。



- ドイツ銀行は世界各国に支部があり、ニューヨーク、ロンドン、香港、ムンバイ、ドバイ、東京など他都市でもアート事業を展開している。一部作品は国によって社会的に受け入れられにくく展示に難色を示されることもあるので、地元アドバイザーと連携し事業を進めている。

- リーマンショック後は世界中で約 200 店の営業所が閉鎖となったが、アート事業に関しては経営陣がその重要性和価値を理解しており、予算の増減はあるものの、ネガティブな圧力はない。アート事業を廃止すればドイツ銀行に対する評価はむしろマイナスとなる、経済的、マーケティングの観点から誤った判断をしてはならないとの考えがある。

【訪問日】 2015 年 11 月 25 日 (水) 10:00～

【面会者】 Britta Farber

(Chief Curator, Art-Communications & Projects)

<https://www.db.com/>

<http://art.db.com/>

クルトゥールクライス (Kulturkreis der deutschen Wirtschaft)

- 第二次世界大戦後後 1949 年にドイツの企業連合により、ドイツ再建のための「ドイツ産業連盟 (BDI: Bundesverband der Deutschen Industrie)」が設立された。1951 年、国の再建には経済や建物だけでなく文化の再建も重要、との提言が当時の BDI 会長より提唱され、非営利組織として「クルトゥールクライス」が発足した。法的には BDI から独立した組織だが、同一建物内にあり、両者は接点を持っている。
- アーティストの自由な発想や作品は、社会や企業に物事を異なる視点から捉える方法を示し、新しいものの見方を生み出すことができ、この循環がよい社会の創造につながる、という思想のもと、経済と文化のマッチングを事業の中心に据える。特に若手アーティストに対する支援や助成、企業メセナの顕彰事業、会員向けのワーキンググループを運営している。対象となるジャンルは、建築、文学、ファインアーツ、音楽、パフォーマンスアーツ。
- 財源は、約 400 社の企業会員 (年間 2000 ユーロ以上) および個人会員 (650 ユーロ) からの会費による。会員に対しては、企業担当者が参加できる文化プログラムの企画や、支援先プロジェクトの視察など、アートの現場との接点づくりに力を入れている。



【訪問日】 2015 年 11 月 26 日 (木) 11:00～

【面会者】 Dorine Wolf (Referentin Kultursponsoring und Kulturpolitik)

<http://www.kulturkreis.eu/>

アリアンズ文化財団 (Allianz Kulturstiftung)

- 出捐者である AllianzAG は、1880 年設立、ミュンヘンに本社を置く世界最大手の保険会社。アリアンズ文化財団は 1990 年に設立され、かつてはミュンヘン、現在はベルリンに本部を置く。
- 民間寄付も含め、財団の資本金は 5,600 万ユーロで、事業費は 200～225 万ユーロ。企業本体からは独立した団体で、アリアンズは財団の財務管理を担うが、プログラム運営には関与しない方針である。
- 教育と文化に関するプロジェクトがメイン。「ユーロ市民」をテーマとして、ヨーロッパ近隣国をつなげ、ネットワークを構築すること、文化芸術の担い手をつなげることを目的に、ヨーロッパの知の発展、現代芸術、文学、舞台芸術のためのさまざまなイベントや、人材交流などの事業を行っている。



【具体的なプログラム例】

- ・ **Debate on Europe:** 各地域のパートナーや、政治家、作家、科学者を招待するヨーロッパ全域でのパ
- ・ ブリックディベートイベント

- **Allianz Summer Academy:** 毎年、ヨーロッパやアメリカの 5 つの大学から学生を約 180 名招き、5 日間にわたり欧州政策についてのトピックのもと、数日間を過ごすアカデミー
- **International Curator's Workshop:** 国際的な経験を持たない若手キュレーター15~17 人を対象に、アーティストとともに仕事をする 2 週間のワークショップ

【訪問日】 2015 年 11 月 26 日 (木) 15:00~

【面会者】 Michael M. Thoss (Managing Director)

<https://kulturstiftung.allianz.de/>

シェーリング財団 (Schering-Stiftung)

- シェーリングはドイツの薬剤師で実業家のエルンスト・シェーリングによって創業された大手製薬会社。2002 年財団設立。現在は本社から独立し、年 2 回寄付を得て運営されている。
- 事業費の財源は税控除対象となる寄付の利子。スタッフは、アート分野のプロフェッショナル、ニューロサイエンティスト、アートマネジメント、事務員 2 名の全 5 名。学生ボランティアを活用することもある。
- ライフサイエンスとヴィジュアルアーツ、舞台芸術の分野における先端的な取り組みの奨励を目的に、助成事業やギャラリーでの企画展、科学とアートを融合させるコラボレーションの制作等支援、フォーラムの開催などを行う。芸術分野はファインアーツ、科学分野はライフサイエンス(化学、バイオロジーなど)で、事業の 10%は教育プロジェクトとして行っている。



- 他に、オペラ・ベルリンとの子ども向けプログラムや、19 世紀のサロン文化を劇場に持ち込み、ゲストとさまざまなテーマについてディスカッションを行うサロン「Parlours」も運営する。

【訪問日】 2015 年 11 月 27 日 (金) 11:00~

【面会者】 Heike Catherina Mertens (Director of Arts and Culture)

<http://www.scheringstiftung.de/>

【州、市関係機関】

レンダー (州) 文化財団 (Kulturstiftung der Länder)

- 1988 年、国内の重要な文化財である絵画等を購入・保存する事業を目的として設立。ドイツ 16 州から資金を集め、各州の美術館・博物館が絵画を購入する際に、購入費の 1/3 程度を支援する。主な対象は、美術館のコレクション形成で、ジャーマン・コレクションに注力する。そのほか図書館やアーカイブ資料館も支援の対象となっている。
- 財団の運営は、16 の各州から選出した理事会のほか、個人寄付者からなる専門委員会、キュレーター、15 人のアート専門家、5 人の企業・財団人が担う。
- 音楽や展覧会などの文化活動と企業のマッチングも行っている。2008 年のリーマンショックにより、企業からの資金支援は下火になったが、一方でドイツ銀行のように、CEO など企業トップが私費で支援してくれる企業もある。



- WEB上でドイツの文化支援を行う財団・企業・団体4,000～4,500件のデータベースを公開している。誰でも無料でアクセスでき、音楽や美術の大きなプロジェクトから、画家などが地方で行うような小さなイベントまで、支援先を検討するのに役立つ。運営資金がかかり維持は大変だが、ドイツは税制が複雑なため、正確な情報を提供することは非常に大事。
- 他に、機関誌の刊行、学生向けコンペ、フォーラムの開催や、第二次世界大戦によって破壊され失われたドイツ・ロシアの美術品に関する調査、美術作品や紙媒体資料の修復事業も行っている。

【訪問日】2015年11月27日(金)15:00～

【面会者】Isabel Pfeiffer-Poensgen (Generalsekretärin)

<http://www.kulturstiftung.de/>

レッドタウンホール/ベルリン市参事会官房 (The Governing Mayor of Berlin Senate Chancellery)

ベルリン・ロト財団 (Lotto Foundation Berlin)

【レッドタウンホール】

- ミッテ区にあるベルリン市庁舎で、市長およびベルリン市の行政組織(参事会)の本拠地。1861～69年にかけて北イタリアの盛期ルネッサンス様式で建造された。ベルリン大空襲により大きく破壊されたが、1956年に再建された。
- 庁舎内ではオープンハウスイベントや、毎月曜日にコンサートが行われている。昨年は在ベルリン日本大使館とともに、雅楽演奏も実施された。



【ベルリン・ロト財団について】

- 宝くじ「Lotto」をもとに運営される基金。1975年に創設され、ベルリン参事会が管轄する。スポーツや青少年育成、社会的慈善活動、環境保護、文化活動、市民活動等のプログラムへ助成を行う。
- 年間 6,500～6,700万ユーロを助成。内訳は、スポーツが25%、青少年育成が25%、そのほか 50%で文化・教育・社会活動等に関するプログラムを支援する。
- 申請は年4回受け付け、助成額は財団が保有する資金の多寡によって毎年異なるが、2010年から2014年では6,550万ユーロから6,700ユーロ(≒89億円)に増額した。文化は例年、およそ1,500～2,000万ユーロ(≒26億)の支援額。
- 各団体からプロジェクトの申請があり、書類の内容と団体の専門性から助成先を判断する。年間で約4,900件の応募があり、財団と官房で一次審査を行い、市長・議員からなる理事会に上程し、採択活動を決定する。理事会のメンバーは6名、任期は3年となっている。

【訪問日】2015年11月30日(月)11:00～

【面会者】Michael E. H. Leu (Regierungsdirektor, Abteilung Politische Koordination)

Sybille Blomeyer-Bartenstein (Referatsleiterin Kultus, Gesundheit und Soziales)

Petra Schwarz (East Asia and the City Partnerships with Beijing and Tokyo)

<http://www.berlin.de/> <http://www.lotto-stiftung-berlin.de/>

以上